

世界最高強度 1350Mpa 級ロール成形バンパービームを日本で初めて開発

平成18年2月2日

各 位

株式会社 丸順

岐阜県大垣市新田町 2-1234

株式会社丸順は世界トップクラスの強度をもつ自動車用バンパービームを日本で初めて開発し、今春量産化に入る。当社が新たに開発した冷間ロール成形による超高張力鋼板加工技術を応用し、併行して製鉄メーカーが開発した従来より20%近く強度の高い1350Mpa 級の超高張力鋼板を採用して製品化を行った。冷間ロール成形はコイル状の鋼板を投入してから穴あけ、ロール成形、曲げ加工、切断と連続して、しかも高スピードで生産できる量産性に優れた加工方法で、特に世界で最も厳しい性能要件が求められる北米地区の自動車用バンパービームでは主力になっている。従来、日本で採用されてきたバンパービームの材料は高張力鋼板の980Mpa 級若しくは 1180Mpa 級が最高強度であったが、主力マーケットである北米現地では1180Mpa 級の材料は入手出来ない為、グローバル材としてはワンランク下の980Mpa 級の材料が主力であった。

今回、当社の1350Mpa 級バンパービームの開発により、世界トップクラスの製品開発が日米で可能となり、今後、グローバル車のバンパービームにも、より強度が高く、より軽量の製品として採用されていくことが期待できる。製品重量は従来に比べ10～15パーセントの軽量化が図れ、自動車の燃費向上と地球温暖化対策にも寄与できる。

当社は、1997年に高張力鋼板にも優れた成形能力を持つロール成形ラインを浅西工場(岐阜県大垣市)へ導入したのに続き、2000年にも上石津工場(岐阜県養老郡)へ導入を行い、現在は2本のラインで年間200万本強のバンパービームを生産し、北米輸出車を始め中国等にも輸出している。更に研究開発においては、バンパービームや自動車ボディーの低速域衝突性能を自社評価できる世界有数の実物衝突試験設備とコンピューターシミュレーション設備を技術研究所(栃木県芳賀郡芳賀町)に導入して、主要取引先であるホンダと共同開発を進めながら、独自の研究開発にも力を注いできた。

以上